

この度はZ会東大進学教室の実力テストをご受験いただき、ありがとうございます。テストの成績表を見る際は、得点や偏差値よりも「どの単元ができなかったのか」、「どこを減点されているのか」といった答案の内容を見直すことが大切です。下記の各教科からのアドバイスを参考にしながら、復習に取り組みましょう。さらに同じ問題をもう一度解いてみることも効果的。復習によって「理解し、できるようになること」で、実力をつけることができます。これからも頑張りましょう！

英語 * 講評 *

今回の試験範囲は関係詞・比較・準動詞だが、全体に、比較表現やイディオムの応用表現を含む問題での失点が目立つ。【1】は分詞を中心とした文法問題。独立分詞構文を問う(1)やOとCの関係をふまえて正答を導き出す(5)、good enough「十分である」の表現を問う(8)のような問題での誤答が多い。【2】はイディオムを中心とした問題で、正答率は低く、特に(2)は難度が高かった。日頃から1つの表現を身につける際には、同意表現や言い換えられる表現など周辺知識とともに習得する癖をつけておくこと。【3】の語整序問題では、比較表現を含む【A】での失点が多い。比較表現は苦手な生徒が多いが、まずは定型表現を理解して、例文を通して1つ1つ覚えていくことが重要である。【4】の正誤問題では、(5)を選べなかった答案が目についたが、need to be done と want ...ing が同意表現であることを身につけていれば失点は防げたはず。【5】の読解問題は読みやすい長文だったのではないだろうか。【6】の内容把握中心の長文読解では、文章全体の内容理解を問う(3)と(4)の正答率が低い。読解問題では、理解が曖昧だった箇所は解答解説を参照して内容がつかめるまで読み込んでおくこと。今回のテストで間違えたところは次回に同じ失敗をしないようにしっかり復習しよう。応用力をつけるためにも、まずは知識を正確に覚えることを心がけておかなければならない。

数学 * 講評 *

【1】基本問題。(3)(4)は基礎事項の確認として頻出の問題ながら正答率は低かった。失点箇所は単元の基本からの復習を心がけよう。【2】(1)答えは出しても遠回りな答案が散見された。余弦の2倍角の公式を利用する際に、 $1-2\sin^2\theta$ や $\cos^2\theta-\sin^2\theta$ にしたものが多かったようだ。結論から判断して、 $\cos\theta$ だけの式にしようという意識が必要である。(2)は $\sin(90^\circ-\theta)=\cos\theta$ に気が付かなかったものが多かったようだ。加法定理から導いた答案もあったが、 $90^\circ\pm\theta$ などの三角関数の基本公式をスムーズに使いこなせるようにしておきたい。 $\cos\theta$ 、 $\sin\theta$ の3次方程式を導いたもののうち、 $\sin\theta\neq 1$ 、 $\cos\theta\neq 0$ を断らずに $\sin\theta$ の2次方程式にしているものが半数弱見られた。等式を文字を含む式で割る際には注意して欲しい。【3】(1)はよくできている。(2)の場合分けに気づいた答案が少なく、答案のほとんどが、接するときが最大で、最大値5としていた。文字定数を含む設定の場合には、場合分けを要求されることが多い。【4】2次関数の問題。「xが整数」という条件の使い方を誤った答案が多く見られた。xが整数しか取れない場合、 $f(x)$ の最小値は、必ずしも頂点のy座標になるわけではないことに気づけたのは少数。【5】は【4】と同様に出来が今ひとつ。外心を求める際に、「角の2等分線上に存在(=内心)」「中線上に存在(=重心)」といった基本事項が抜けているものが多いようである。三角形の5心についての復習は必須。

国語 * 講評 *

国語は、総合的に大きく点差の開く結果となった。【一】は標準難易度の文化評論。問5の記述問題は、本文の趣旨をどれだけ正確に掴めたかを見ることのできる問いだが、満点を獲得した答案はごく少数だった。記述問題で要求されるのは「表現力」である前に「精密な読解をした」という証明である。読みの浅い解答には、初めから記述(表現)面での得点を与えていない。【二】は30年以上前の抽象度の高い評論。こういった問題に対応するには幅広いジャンルについての読解演習に取り組んでおく必要がある。問2の抜き出し問題では、該当箇所を抜粋できているにも関わらず誤字脱字で失点する答案が散見されたのが残念であった。【三】古文は文法習熟度で大きく差がついた。各問とも文法・知識事項を根拠に据えた選択肢であり、実は基礎力が問われている。文法・知識事項は本文読解の「前提」とも言え、遅くとも高2終了時点で完成しておかねば難関大国語攻略への道のりは厳しい。【四】漢文は、想定通り得点率は低い。文章終盤にある主張を、比喩や寓話を通して伝える構造は典型的。内容把握だけでなく句法を問う基本問題でも失点が見られ、漢文学習の遅れが目立つ結果となった。これは高2生においてはやむを得ないところもあるので、これを機会にしっかり復習し、受験学年になるまでに基礎の理解を固めておきたい。全体的に、特に平均を下回った大問は弱点として徹底補強すること。国語は一貫した読み方を身につけた上での継続学習が実を結ぶ。完成には膨大な時間を要することを考慮して、受験に向けて早めのスタートを切ろう。

* 東大を志望する場合の目安 *

実力テストの結果はどうでしたか？ 東大を志望する人は、今回の実力テストにおいては、英数国3教科総合で、偏差値:60を一つの目標とするといいいでしょう。ただし、今回の得点はあくまで一つの結果でしかありません。過去には、偏差値45程度から合格した人もいます。合格者の特徴として、①苦手分野を発見するための手段として模試やテストを活用できている、②結果として、全教科バランスよく得点できている...ことが挙げられます。皆さんも、東大をはじめとする難関大に現役合格するためには、数字の結果だけを気にするのではなく、しっかりと復習をして、受験生になる前に英語・数学・国語の主要科目＋地歴理科の1科目まで、基礎を確実に固めておきましょう。(※ちなみに、受験生選抜東大クラスの認定基準の最低ライン(実力テスト)は偏差値65以上で、英数国それぞれで認定を出します。次回以降の実力テスト受験の際に目標としてみてください)